

414
A3143

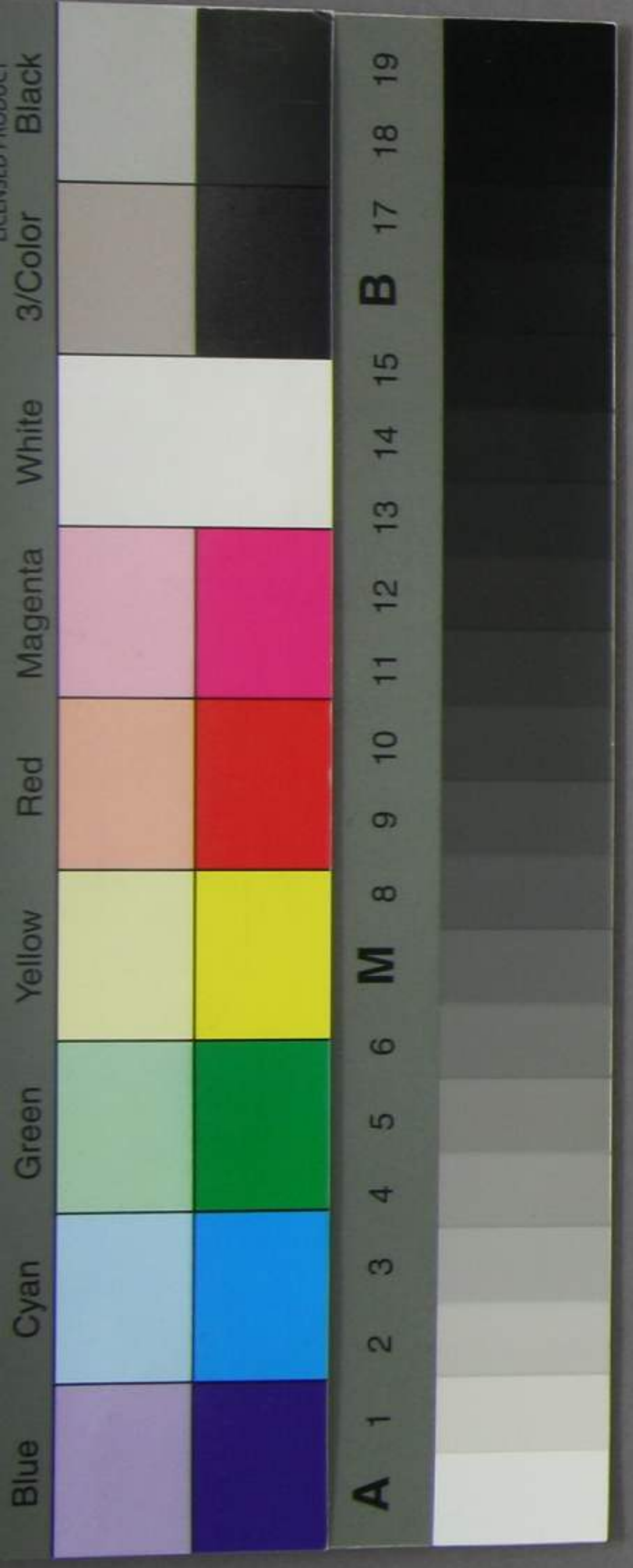
第七十七号

十五葉



天正十一年四月
使番寄附

三月二十日「ヘラルド」抄譯
 受人外國ニ於テ交易ノ好地位ヲ占メタル
 英人漸々注意セリ近頃蘇格蘭ニ於テバル
 トル、フレル君東方某地ニ於テ日耳曼人ノ交易
 甚々盛ニナルヲ述ヘ其後バルトル、フレル君ノ
 言ヲ證スル數多ク書出テタリリブルプール交
 易會社ノ前ノ社長某曰ク余數年間心ヲ留メテ或
 ル商家ノ英日兩國ノ人許多ヲ使役スルヲ察セ
 シニ良高トナル者ハ日ノ少年ニシテ其良高ト
 ナル所以ハ教育ニシキニ在リト又曰ク日ノ



少年ハ何事ヲ為スモ精密ニシテ小事ト雖ハ
モ遺漏スル所無シ故ニ精神自カヲ慣レテ後來
敏捷ノ商人トナルト又新嘉坡ニ任スル一高書
ヲメイムス新聞ニ寄テ曰ク余ストレットツセツ
ツルメンツ及ヒ支那ニ在ル一數年日耳曼人ノ
東方及ヒ支那ノ商賣俄カニ盛大ニ進ミタルノ
證ヲ得タリ余始テ新嘉坡ニ來リシ時ハ日ノ商
家唯一戸ナリシカ今ハ其數殆ント英ノ商家ニ
同シク富モ之ニ讓ラス商賣モ盛大ナリヤナ
ノ地ニ於テモ同様ノ形況ナリ新嘉坡香港西貢

領ノ中央ナル交趾ノ佛領サイゴンニ於テハ
ノ商賣過半日人ノ手ニ在リ普佛戰爭ノ時地方
官日ノ商人ヲ盡クサイゴニ追出シシレモ
戰爭ノ終リタル後チ忽チ歸來リテ再ヒ故ノ如
ク商賣ヲ盛ニシ日人某數月前ヨリサイゴンノ
英國領事官ノ職ヲ攝セリ去年香港ニ於テハ日
ノ商家二十五戸アリ英ノ商家ハ纔ニ二十二
戸ノミ支那海岸ノ運送商賣モ過半日人ノ手ニ
在リ又廣價ノ日耳曼製鐵器ヲ夥ク東方ノ市
ニ輸入ザリト此書寄ヤタル人ノ説ニハ日人

ノ高貴ニ秀テタル 其天性ノ聰明ト教育ノ勝
レタリト職業ニ勉強スルトニ固ルト言ヘリ
年英國ニ往セル或ル日人モ其國人ノ交易ニ成
功アリシヲ学校ノ制度ニ帰セリ此議論、我合衆
國ニ於テ日人ノ蔓延スルニ關係無シトセス
右「ニューヨーク、フィニッシュ」新聞抜粹

三月二十一日「ヘラルド」抄譯

蝦夷ノ富ニ付キワトソン氏ノ報告

一千八百七十三年八月五日ハルリー・ポークス

君「イギリス」グラヴィングキルニ呈シタル書

六月二十六日ノ書簡ニワトソン氏暇ヲ乞
函館ニ赴キ、シニ「ト」ヲ報知セシガ總ヲニ七周
日ヲ経テ先月十七日歸リ来レリ
ワトソン氏ハ時間ヲ無益ニ費ヤサスニテ蝦
夷ノ富ト方今ゼラレケプロンノ惣督ニテ
亞墨利加ノ測量家及ヒ其他ノ官吏ノ從事スル
工業ノ進歩トニ付テ報告書ヲ作レシ、今之ヲ閣
下ニ呈ス日本政府蝦夷端ノ天然ノ富ニ因テ得
ヘキ利益ト其富ヲ發開スルノ良方ヲ十分ニ寫
シサレハ嘆スヘキ事ナリ

トソン氏報告ニ據ルハ方今ノ状況ハ氣
力正實、波采勇氣共ニ決テタリ是マテ成ニクハ
事ハ皆政府ノ指揮ナリ、ウィル、プ、氏、本年ノ商
賣上ノ報告ヲ見レハ政府行フ所ノ道氏ノ企ト
商賣ノ管理ハ此嶋ノ一般ノ交易ニ裨益甚メ少
ナキヲ知ル可シ

ハルリ、パークス謹言

一千八百七十三年七月二十七日ロツトソン氏
ルリ、パークス君ニ呈シタル書

謹テ綴夷嶋ニ関セル左ノ書ヲ呈ス此書ハ六

札幌へノ旅行中見聞セシ所ノ事ヲ輯録セシ
ノニテ余ノ札幌へ赴クニハ近頃成就シタル道
路ニ由リ帰途ハ札幌ヨリ西海岸ニ沿テ函館ニ
達セリ函館ヨリ札幌ニ至ル道路ハ二部ニ分ル
一ハ長サ三十里、英一ハ九十里ニシテ第一部ハ
函館ヨリ森ニ達ス森ハ火山湾ト名ツクル太平
洋ノ支海ニ濱セル一村ナリ此湾ノ近傍ニハ三
火山アリテ湾ニ臨メリ之ニ因テ火山湾ノ名ヲ
命シタルナリ函館ヨリ道路海ヲ繞テ進ミ凡ソ
十里ニシテ對峙セル丘ニ入り高丘ヲ越エテ

ト云フ村及ヒ河ノ東ニ出テホ
山ノ麓ナル林中ノ二小湖ノ間ヲ過テ下リ夫ヨ
リ森ニ至ルマテ十里ノ間ハ一條直路ナリ
函館ニ近キ處ハ路幅四十五尺
前ハ三十尺ニ域ス此道路ハ亞墨利加農學使
一シヨルワルフキールド氏ノ監督ニテ開キタ
ルモノニテ其工ノ巧ミナル驚クヘク功ヲ竣ル
急卒ニシテ且ツ屢大雨ニ逢ヒタレハ一點ノ缺
典ヲルヲ見ス道路ヲ開クニ先テ測量ヲ始メタ
ルハ一千八百七十二年四月ナリ然ルニ百二十

里ノ好キ馬車道既ニ開ケ僅カニ敷橋ノ未メ
ク成就セサルアルノミ余ハ車ニ駕シテ函館ヨ
リ森ニ至ル下ヲ得タリ
森ヨリ向岸ニ達セント欲スル者ハ湾ヲ繞ニ行
クハ其路凡ソ七十五里又ハ舟ニテ湾ヲ渡ルハ
(其距離凡ソ二十里)随意ナリ蓋シ後來森ヨリ向
岸ノ新モテラニニ渡ル蒸氣船ヲ設ルナル可
シ余ハゼ子ラールケプロンヲ送ルタメニ函館
ヨリ遣ミタル小蒸氣船ニ乗テ湾ヲ渡リ新モテ
ニ達スルヲ得タリ函館ヨリ森ニ至ルマテ

西線成就セリ森ヨリ湾ヲ統テ新モララニ
至リ夫ヨリ札幌ニ達スル線モ漸々成就セシト
ス

新モラランヨリ七里ヲ隔テ湾ヲ渡レ時左方ニ
當テモララント云フ村アリ故ニ二處ヲシテ相
混スルヲ無カラシメンタメ一ヲ新モララント
名ケタルナリ新モラランハ元トインドルモ
唱ヘタル地ニテインドルモ浦ノ上ニ在リ此浦
ハ良港ニテ多クノ舟ヲ入ルヘク且ツ浦口ニ一
島アルヲ以テ砲臺ヲ設テ防禦ノ備ヲ為ス一信

ナリ此良港ノ上ニ當テ方今村ノ開ケシト
ル處ハ札幌ヘノ大道ノ口ニテ夫ヨリウシク湾
ニ沿テ進ミ樹木ノ繁茂セル丘ヲ經テ蝦夷ノ東
岸ニ出ツ此處ヨリイソノ岬見エ夫ヨリ海岸ニ
沿テ進ムヲ四十里此間左ハ樹木繁茂セル高丘
連綿トシテ絶エス右ハアイノ人ノ村落處々ニ
散布セリコイト井ト云フ一村ニ至リテ海岸ヲ
離レ凡ソ四十五里ノ林ヲ過テ札幌ニ達ス道路
ハ大抵土若クハ碎キ、ル浮石ヲ以テ蓋ヘリ
カハ人口多クヲサレモ蝦夷ノ首府ニシテ此

鳴ノ政府ノ在ル所ナリ一千八百七十一年於テ
開キタル地ニテ廣サ一里美麗ナル平地ニ在
リ札幌ヲ去ル二里許石狩河ノ支流ト井ヒノ河
ノ畔ニ樹木多キ丘アリ石狩河ト札幌ノ間ニハ
小溝アリテ相連ナリ其距離凡ソ十五里ナリ石
狩河口ノ水ノ深サハ沙灘上七尺アリト井ヒラ
河ハ重サ五十トニノ品物ヲ運輸スル水脚淺
キ小舟ニテ札幌ヨリ二里内ノ處マテ進ムナラ
得札幌ヨリ最モ近キ港ハ西岸ノオタルナイニ
テ札幌ニ云ルニ二三里其間、好キ道路ナリガ

札幌ハ後來重要ノ地トナルハ望ニテ開キタル
處ニシテ官廳日本旅店日本官吏ノ美禰ナル居
宅更ニ美禰ナル亞墨利加人ノ居宅等アリ街衢
ハ廣ク病院一箇所及ヒ其他ノ公館アリ今ニ至
ルマテ札幌ノ近傍ニハ歐羅巴ノ蔬菜ヲ種ヘタ
ル二三ノ園ノ大イニ繁殖セルノミニテ其他ハ
殆ント耕作セル地無シ府中ニハニツノ蒸氣磨
アリテ材木ヲ伐ルノミニテ其他ノ職業アラ
見ス
上ニモ言ヘル亞墨利加農學校ノ首長及ヒオ

屬ノ則、鑛家地質學者等親切ニ蝦夷地ノ形、
余ニ語レリワツソン氏ハ日本人ト共ニ嶋ノ製
量ニ從事セリ一千八百七十四年ノ末ニハ地圖
ヲ作テ地理ノ大略ヲ示ストヲ得ヘント言ヘリ
蓋シ内地ハ是マテ日本人スラ未タ行カサリシ
處過半ナリ地質學者ノ首長ライメン氏嘗テ印
度政府ノ為メニペンジヤブノ地ニ於テ石
搜索セシ人ナリ蝦夷礦物ノ事ヲ語ルヲ聞クニ
石狩河ヨリ數里ヲ隔テ石炭ヲ見出シタレト
イメン氏ノ意ニテハ最モ實ニ利益トナルヘ

キハオタルナイノ南九ノ四里ニ當リ西岸ノ
イワナイト云フ處ノ碇泊場ニ近キ石炭坑ナリ
ト思ヘル様子ナリ此石炭坑ヨリイワナイニ至
ル一テ長サ七八里ノ運車路ヲ造レリ石炭ノ
サハ九ソ六百五十尺六層ニ分レ毎層各々三百
萬トシノ石炭ヲ出スヘシ之ヲ函館ニ於テ賣レ
ハ一トシ九ソニ弗半ノ價ナルヘシ不算ス嘗テ
礦物ヲ掘ル事ヲ任セラレタルゴワエハ氏ハニ
語テ曰ク此石炭ノ中ニハ極テ良品アリト此
炭坑ノ邊ニ於テ金沙ヲモ見出シタリ又々

テ銀、其層極テ薄シ、滿庵硫鐵、鐵沙、銅、亜鉛、石
油、硫酸、石炭、及ヒ夥シク、硫黄ヲ見出シタリ、然レ
モ今ヨリ數年間、蝦夷ノ首産ハ材木ト浦魚ト
ニツナル可シ

蝦夷ノ山林ニハ有用ノ材木甚タ多ク容易ニ新
モララレ、若クハオタルナイノ港ニ運輸スルヲ
得、シ材木ノ價ハ需ムル者ノ多少ニ随テ高
レ、レ諸種ノ材木ヲ混シ横濱ニ於テ平均一十
尺ノ材木三十五弗ヲ値ス、ハシ蝦夷ノ山林ニ於
テゼ子ラルケノヤシノ始メ、ル穿鑿ニ從テ等

スレハ一株ノ樹亦平均凡ソ百乃至四百尺ノ
材トナルヘク一エークル三エークルハ四方四萬
五、五百六十尺ナリ
ノ地ヨリ四萬二千五百尺前後ノ材ヲ出ス可
キ、一エークルノ樹林ヨリ殆ント一千五百弗ノ材
ヲ出ス可シ、但シ其中ヨリ材ヲ製シ及ヒ市ニ運
輸スル費用ヲ減ス可シ
勞動ノ時間ヲ毎日十時ト着做シ、蝦夷ニ於テ日
々一エークルノ材木三萬五千尺ヲ製スルニ月々
一キ機心ノ費用ハ左ノ如シ

百馬ノ機械其他鋸等ノ價 一萬五千弗

工作場建築ノ費 二千弗

サンプランシスコヨリ機械運賃 五千弗

機械組立費用 三千弗

惣計二萬五千弗

若シ右ノ計算ニ誤無ケレハ二萬五千弗ヲ費ナ
シテ毎日一千二百二十五弗ノ材木ヲ製シ七
三日ノ休日は是レ日本休日ノ常數ナリヲ除キ十
年三十五萬七千七百弗ニ値スル材木ヲ製スル
ヲ得ヘシ若シ一倍ノ人ヲ用 毎日十時間ノハ

ニ二十時間働クハ右 機械ニテ二倍

材木ヲ製スヘシ蝦夷ヨリ支那印度ノ市へ材木

送ルノ可否ヲ屢々ケプロン氏ニ問ヘルヨシ

ケプロン氏余ニ語レリ又其後日本政府ノ築造

家ボイル氏日本ニ於テ鑛道築造ニ用フヘキ材

料ヲ搜索セン為メ蝦夷ニ行カント建言スルヲ

ヲ語レリ

上ニ記スル所ヲ以テ考フレハ假令ヒ工銀運賃

ニ多ク高ラサスモ猶蝦夷ノ樹林ハ處置宜

ケレハ利益マル可ク其利益ハ政府ニテ計大

ヲ製スハ政府ニ歸シ外國若クハ日本ノ私
政府ト契約シテ材木ヲ製スレハ其社中ニ歸
可シ然レモ衆人ノ説ニ據ルニ日本政府ハ蝦夷
ニ在ル其臣民ノ費用ヲ制御スル能ハサルニ因
リ政府自カラ材木ヲ製スルハ之ヲ社中ニ許ル
スノ利益アルニ若カス今余カ親シク目撃セシ
所一二事ヲ舉テ之ヲ證セン近來蝦夷ニ於
堅固ナル四箇ノ波渡場ヲ造レリ一ハ森ニ在リ
其長サ五百尺他ノ三八石狩河ニ在リ此四箇ノ
波渡場ノ端ハ水深サ七尺過キスシテ一

波渡場ヲ築造スル費用殆ニ十萬弗ニ下ラ
レモ波渡場ハ蓋ク用ヲ為サス小キ運送船ノ便
利トモナラズ少シク大ナル船ニハ愈益無シ
余森ニ於テハ風浪平ナル時ニテモ舟ヲ横ニ
テ波渡場ニ着スルヲ能ハサルヲ見タリ
又日本政府ハ函館ヨリ札幌ニ至ル道路ノ築造
ニ現ニ費ヤシタル勞動材料ノ價ニ二倍セル高
ヲ拂ヒタリトノ説ナリ是レ用ヒタル人夫ノ數
ト之ニ政府ヨリ拂ヒタル賃銀トヲ比較シテ
セルモナリ此道路ノ築造ニハ凡ソ三十萬弗

ヲ費ヤ 政府ハ八十萬ヲ拂ヒタリト云フナ
蝦夷ニ於テ公事ニ公錢ヲ費ヤス方法中ノ唯ニ
箇條ノミニシテ其他ハ一々枚舉スルニ違フヲ
ス斯ル事ハ亞墨利加人ニ議セサルヲ以テ亞人
之ヲ制スル能ハス或ハ全ク亞人ノ言ニ反シテ
行ヒタルモアリ

蝦夷島ノ產物ヲ開クニハ新モララニイワナ
ニタルナイノ三港ヲ開テ外國船ノ往來ヲ許ル
サ、ル可カラス然ルルハ船ヲ特遣スルカ為メ
ニ生スル死費ト時日ノ遲延ノ二害ヲ避クル

ヲ得ヘシ新モララニハ萬事 豆ノ地ナレハ高
賣盛ニナラス然レハ新モララニヨリ札幌ノ間
政府ヨリ命シタル運車郵送ノ始マレニ至
其形況ノ改マルヲ期ス可シイワナイオタ
ナイノ二港ヲ開カンヲ欲スルハイワナイハ
石炭坑ニ近クオタルナイハ石狩河札幌ニ近ク
レハナリ余イワナイニハ日本船ノ頗フル多ク
ヲ目撃シオタルナイニ於テハ百艘以上ノ船ア
ルヲ見タリ此三處ハ共ニ人口繁殖セル海岸ニ
在リ

余ノ信スヘキ處ヨリ聞キタル蝦夷輸出ノ大
ヲ左ニ附録ス

東岸ヨリ輸出ノ高ハ昂チ左ノ如シ

昆布

十萬石

價五十萬弗

コワシ肥料ニ用フル魚ノコヤカシ

四萬五千石

價十八萬弗

松魚

三萬五千石

價二十一萬弗

サハエン、トロイトノ松魚類

三十石

價九千

鹿皮

三萬枚

價一萬五千弗

角

八百ピキユル

價八千弗

アワビ

一千三百四十ピキユル價三萬六千八百九

十九弗

イリコ

七百二十ピキユル價二萬五千七百四十七弗

烏賊魚

八百三十七ピキユル價七千六百七十二串

材木 不詳

煙草 全

雜品 全

一石ハニピキユル半ニ當ル

一ピキユルハ百三十三ポント半ニ當ル

巴岸ノ産物ハ大抵松前ヨリ輸出ス其高ハ上ノ

計算ノ外ナリ

蝦夷ヨリ輸出ノ惣高ハ毎年ノ百萬弗ト算ス

輸出品ノ税ハ凡テ三十七萬ニナリ

ルジワットソ花押

116

三月二十三日「ガゼット」抄譯

電報 倫敦一千八百七十四年三月九日 二月

十六日 プラゴリウオルセレー氏ノ書信ニ曰ク

アシヤンチー王ハ償金ノ内先ツ一千オレヌン

金ヲ送レリウオルセレーハ二月十三日フオン

マナニ於テ使節ヲ迎ヘ之ヲ歸シテ和睦ノ條約

ヲコンマツシーニ報セリ

佛國ニ於テハンヤンボール侯ノ寫真ヲ賣ルル

ヲ禁セリ

